

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272200922		
法人名	特定非営利活動法人グループホーム陽だまり		
事業所名	グループホーム陽だまり		
所在地	柏市高田999-22		
自己評価作成日	令和2年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	令和2年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>現在の高齢者が大切にしてきた日本古来の風習や四季折々の時節に合わせた行事を重んじ、家族的な雰囲気の中で共に楽しみながら、高齢者自信を主役にし季節感を味わえる様に努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>民家改修型施設「グループホーム陽だまり」は、入居者にとって親しみのある造りとなっている。また、施設は住宅地の高台にあり、見晴らしの良い景色と豊かな自然に囲まれており、生活感や季節感を身近に感じられる環境の中にある。地域の一員として、地域に必要とされる施設運営を目指しており、地域行事への参加や施設行事への招待等を通して、地域住民と積極的に交流を図っている。重度化や終末期の対応においては、医師と24時間の協力体制を整備しており、家族・医師・看護師等と状況に応じた対応や方針の検討を行うと共に、職員の研修実施やケアの統一を図る等、本人や家族の意向を踏まえ、安心して納得が得られるよう、支援体制を整えている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	採用面接時に説明し、その後はミーティング等で確認している。	「家庭的な暖かい温もりのある施設」「地域住民との交流を密にした開かれたホーム」「入居者がその人らしく最後まで安心して暮らせる支援」「してあげるケアから一緒に過ごすケア」を理念として掲げ、事業所内に掲示している。理念においては、新人研修や会議等で意識浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段より散歩時に挨拶等声かけし、物産交換等も行い、可能な限り地域の行事に参加し、またホームの行事にも参加してもらっている。	日頃から地域住民とは挨拶や声掛けを交わす関係を築いていると共に、地域行事への参加・施設行事への招待・ボランティアの受け入れ等を通して、地域住民と積極的に交流を図っている。また、中学生の職場体験受け入れも行う等、世代間交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座等を開催し、地域の方々にも参加をしてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からの素直な意見を尊重している。	運営推進会議は年6回の開催を予定しており、市役所職員・地域包括支援センター職員・市議会議員・地域住民・同業有識者・法人役員・家族等が出席している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行う等、施設の理解促進を図っている。また、様々な立場の人から挙げた意見は、施設サービスの向上に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内同業者と連絡会を組織し役員となっているため連携は密である。	日頃から市に対して、業務における報告や相談を行う等、連携を図っている。栢市グループホーム連絡会に参加しており、市や同業者との意見・情報交換を行う機会を設けている。また、市やグループホーム連絡会主催の研修にも参加する等、サービスの質向上に取り組む体制を構築している。	

【千葉県】グループホーム 陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束廃止研修等を受講し共有している。	身体拘束排除における指針を整備していると共に、定期的に検討委員会を開催している。会議開催時に身体拘束排除研修に参加した職員による報告を行う等、職員の意識共有を図っている。日中は玄関の施錠は行わず、入居者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	連絡会から市の虐待防止委員会の委員を出し皆で共有しているしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括ネットワーク会議等に参加し、他業種の方々と連携し必要と思われる方にはアドバイスをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	早急な契約はせず十分理解を得られ納得された上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	さり気無い会話等から聞き取ったり、運営推進会議に参加してもらい反映させている。	家族の訪問時・電話連絡・運営推進会議等を活用して、家族の意見・要望等を確認している。挙げた意見・要望においては、会議等で周知・検討の上、適切な改善に努めている。他に、家族参加の機会を増やす等、家族との信頼構築に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行っている。またOBが相談役として職員の意見を吸い上げている。	定期的に会議を開催し、職員の意見・提案等の確認を行うと共に、申し送りノートを活用し、職員間の情報共有を図っている。職員の自己評価を実施しており、適切な人材育成に向け取り組んでいる。他にも、有給休暇の付与により、働きやすい職場環境の整備を行っている。	

【千葉県】グループホーム 陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材は財産と考え努力に報いる処遇には最大限の努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	連絡会として合同研修の機会を設け、参加は勤務日程を調整して確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同業者と連絡会を組織し互いに切磋琢磨している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談は主に家族からであるが本人の要望は可能な限り受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談は主に家族からであるので本人以上に時間をかけて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な契約を求めるのではなく現状に合わせた他のサービスの情報提供等助言をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごすという理念のもと個別の暮らし方に沿うよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に介護の両輪であり一緒に支え合う旨話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限りの取り組みをし面会等は制限せずに行っている。	日頃から、友人・知人・親戚等の訪問を受け付けていると共に、家族との外出・外泊も自由となっており、馴染み関係継続を支援している。希望に応じて、買い物やドライブ等の外出も行っており、馴染みの場での楽しみを支援している。また、地域行事への参加や施設行事への招待等を通じて、地域との関係継続及び交流の機会を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小人数なので難しい面もあるが最大限の努力はしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	押しつけにならない範囲で行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進んだ利用者には大変難しいが出来得る限りの努力をしている。	入居にあたり、本人・家族の意向・生活歴・身体状況を確認すると共に、医療機関や他事業所からの情報提供も受ける等、詳細な情報の把握に努めている。また、入居後、担当職員・管理者・計画作成担当者を中心に、会議・申し送り・連絡ノートを活用しながら情報交換を行う等、入居者主体の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等の協力を得ながら努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の好みやADL等状況に合わせて工夫している。		

【千葉県】グループホーム 陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングを行い話し合いのうえ作成している。状態変化の見られた時は随時見直している。	本人・家族の意向やアセスメントを基に、会議にて意見・情報交換を行い、介護計画を作成しており、入居者主体の必要な支援を盛り込んだ具体的な内容となっている。定期的に目標達成状況を確認し、必要に応じて介護計画の見直しを行う等、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことでもノートに記載し情報を共有し、より良い方向に向かうようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力のもと可能な限り行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力により支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携契約を結んだかかりつけ医に全面協力支援を受けている。	希望の医療機関の受診が可能となっており、定期的に内科医による往診も実施している。また、訪問看護師による適切な健康管理や医療処置等が行われていると共に、訪問薬剤師による服薬管理を行う等、適切な医療支援に繋げている。他にも、必要に応じて訪問マッサージの利用も可能となっており、入居者一人ひとりの身体状況や希望に応じた対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと提携し週に1回定期的に訪問を受けている。また非常勤看護職員が居り連携している。。		

【千葉県】グループホーム 陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携契約を結んだ病院であるが、職員も時間を見つけて面会に訪れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの方針として看取りは自然体であると心得、契約時から家族と話し合い、また職員にも都度説明し共有している。	入居者・家族への看取り・終末期における意向確認や方針の説明を行っており、同意を得ている。医師とは24時間の協力体制を整備する等、急変時及び重度化・終末期に向けた対策を講じている。必要に応じて、家族・医師・看護師等と対応や方針の検討を行い、意向に沿った支援体制の統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本マニュアルを備え対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防局の指導のもと避難訓練を行っている。	自動通報器・消火器・火災報知器等の消防設備を設置していると共に、定期的に避難訓練及び設備点検を実施している。訓練では、消防署立会い訓練・消火器訓練等を実施しており、様々な状況に応じた避難方法の確認を行っている。その他にも、運営推進会議時の地域住民への避難訓練参加の呼びかけを行う等、非常災害時における地域との協力体制の整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であっても心は生きているということ を肝に銘じて行っている。	プライバシー保護・接遇・法令遵守を含めた 認知症の研修に参加しており、会議等を通して、 職員へ意義の周知浸透を図っている。言葉 掛けや介助については、随時注意喚起・ 指導を行い、適切な対応を促している。 チェックリストを活用し、職員一人ひとりの理 解状況を確認する等、適切な支援の実施に 取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	認知症であっても心は生きているというこ とを肝に銘じ、さり気無い会話等を通して 行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	時にはこちらからの声かけを待っている 場合もあるので上手く使い分け接している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	外出時等は個人の生活習慣に合わせた おしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	個々の好みやADL等状況に合わせて行っ ている。	入居者の能力や希望に応じて、食事の準備 から片付けまでを共同で行っている。食事の メニューは入居者の希望を取り入れながら 作成しており、嗜好・季節・希望に応じた食 事提供を行っている。定期的に外食行事・行 事食の提供を実施している。また、手作りお やつや出前を活用する等、食に対する様々 な楽しみを提供しており、入居者から好評を 得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	個々の好みやADL等状況に合わせて行っ ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	提携歯科医の指導のもと定期的に、歯科 衛生士による居宅療養管理指導を受けて いる		

【千葉県】グループホーム 陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は何より大切なことなので工夫し努力をしている。	排泄記録を活用しながら、個々のパターンを把握すると共に、声掛け・トイレ誘導を行う等、排泄の自立にむけた支援を行っている。また、必要に応じて、医師や看護師と相談しながら、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の便秘は大敵と心得予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	楽しみの一つであるので、昼夜を問わず希望に沿う様にしている。	入居者の希望や体調に応じて、柔軟に対応しながら、適切な入浴機会を確保すると共に、清拭・部分浴・シャワー浴等を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。	入浴実施の記録は整備されているものの、変更が生じた際の記録が不十分となっている。今後、中止等の変更内容については、記録として確実に残し、入居者一人ひとりの清潔保持に繋げて頂くことを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて見極め促すこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局による定期的な居宅療養管理指導を受け、症状の変化には十分注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は大切であり、個別に気晴らしを行い本人も満足するよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望はもとより天候に合わせて行っている。	日頃から散歩を実施すると共に、同法人の他施設との行き来もあり、戸外に出る機会を設けている。また、庭を活用して、外気浴を行う等、気軽に外の空気を楽しめるよう支援している。定期的に外出会を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。他にも、地域行事への参加を通して、地域の人達との交流も楽しめるよう支援している。	

【千葉県】グループホーム 陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行度合いに応じ出来る間は自由に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に迷惑のかからない範囲(時間帯)で自由に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハード面では限られてくるがソフト面において工夫している。	民家を改修した施設は、入居者にとって馴染みある造りとなっており、共有空間も家庭的な雰囲気があり、入居者にとって居心地良い住居環境となっている。共有スペースにはソファや椅子等を設置しており、外部の人達も含め、気軽にくつろげるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で出来る限りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望通りにしている。	家族や入居者の希望の物を持ち込むことが可能となっており、居心地よく生活できる配慮している。また、布団を敷く事やポータブルトイレの使用も可能となっており、生活歴や身体状況に合わせた居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別のADLに合わせて随時工夫している。		